

バイオテクノロジー標準化支援協会ジャーナル No.121

SABS Journal No. 121

発行日：2020年10月16日

URL：<http://sabsnpo.org>

このジャーナルはバイオテクノロジー標準化支援協会（SABS）会員だけではなく、広い意味でのバイオテクノロジー関係の方々にも配信しています。ご興味の無い方はこのメールに返信して配信無用の旨をお知らせください。

SABS ジャーナルでは、故奥山典生東京都立大学名誉教授が2015年6月13日のご逝去直前まで毎回様々な分野にわたり溢れる蘊蓄を披露されて居られました。その後、奥山先生のご遺志を継いだ我々が協会を続けさらに発展させて行くため、毎月の定例会を継続して来ました。定例会ではこれ迄通り専門家の方々に話題を提供して頂き、自由な討論を通じて勉強と親睦を深めています。また当会の活動はこの定例会の他、これまた奥山先生の懸案だった「医学と生物学」の復刊を一昨年（2018）暮れにインターネットジャーナルとして果たし、今日まで継続して居ります。

現在、このジャーナルを読んで下さる方々は600名近く居られます。殆どの方が奥山先生の関係で先生の広かった人脈に改めて驚いていますが、ぜひ読者の方々からも話題提供をして下さる方をお待ちしています。ご感想、エッセイなどのご投稿も大歓迎です。また新たに購読希望の方々をご紹介頂ければ幸いです。

ジャーナルは毎月第4土曜日に開かれている定例会の前に発信しています。今年はコロナ禍のため定例会会場の都立大八雲クラブは3月から5月まで利用中止となっしまい、この間定例会を開けませんでした。八雲クラブは6月1日から再開し、6月27日には第102回定例会を開くことが出来ました。その後、例年のように7月と8月は夏休みとし、9月に第103回の定例会を開きました。このときは会場の都合で定例の第4土曜はとれず、12日（第2土曜）になりましたが、ほぼ前回と同人数の方々の出席を頂き盛会でした。当時新たに見つかる感染者のほとんどが20-30代となるなどコロナ事情も大きく変わりました。そんな中、八雲クラブのある渋谷は若者がタムロする街ですから心配でしたが、何と12名の方々が出席され皆お元気な様子、ホッとしました次第です。渋谷の通りもさすがにコロナ以前程混んではいませんし、ほとんど皆マスクは着けているようでした。

さて前回定例会の話題は、科学史家の松本邦男神奈川工科大学名誉教授に『碧素アンブル』（森永食糧三島工場で製造されたペニシリン）が国立科学博物館の重要科学技術史資料に登録されたことに関連するお話でした。非公開資料の陸軍軍医学校研究部編、『陸軍軍医学校研究部年鑑』に記載されている「新興国理念五ヶ條」は、「日本において學術の進歩が進まぬ理由」としてペニシリン開発の中心にいた稲垣克彦陸軍軍医少佐が書いたという当時としては画期的な言葉です。未だ30代の稲垣少佐が医・理・農・工そして数学や統計学な

どの各界の権威を集めて組織的に非常に短期間に有効なペニシリン製剤を量産にまで持っていった快挙のお話です。当時世界でも英米以外にペニシリンは開発されて居ませんでした。話題は今日本でこれだけの大事業が出来るだろうかという話になりました。戦時下、軍が軍事研究として当時としては膨大な予算と人員を動員出来たということも大きいのですが、因みに松本先生は戦後ペニシリンなど抗生物質の開発生産を行ってきた東洋醸造大仁工場で研究開発を進めて居られました。

軍事研究といえば、この9月定例会の大分後になりますが、前内閣が総辞職し現在の総理大臣が新しい内閣を組閣しました。その後世の中ではいろいろなことが起っています。その一つに学会会議の会員任命問題があります。日本学会会議は戦後すぐに研究者が戦時中軍事研究に協力した過去を踏まえて出来ました。これまで長い事大学で仕事をしてきた筆者ですが、実はほとんど接点がありませんでした。多くの人々は聞いた事もない存在だったと思われまふ。報道を聞いて、今回のことは学問の研究と教育に携わってきた人間にとって看過できないことが分かってきました。学会会議が推薦した105人の会員候補から6人の学者を前例になく最終的に削ってしまいました。これについての現首相の説明は前首相と似た「丁寧な」もの。お役人が書いたらしく殆ど同じ「説明」が官房長官などもしています。「総合的」は分かるが「俯瞰的」は珍しい表現。首相は意味を理解して使ったとは思えない。そのうち「私のところには99人分の候補者名簿しか来なかった」という更なる首相発言。次いで「参考資料として105名の名簿も添付した」という官房長官発言には唾然。「学問の自由」に関係すると言われるが「言論の自由」にも深い関わりのある問題で今後の動きが気になります。6月の定例会で経済産業省OBの田坂勝芳さんは現役時代に厚生労働省に出向した経験から、政府の様々なコロナ対策の問題の多くは縦割り行政の中にあると述べられていました。新内閣は「前例や縦割りを無くす」という行政改革に意欲を見せていて、今回の学会会議問題をそれに絡んでいるような発言が続きますが、違和感があるのは筆者だけでしょうか。

一方国外では再選を目指すマスクをしない大統領がコロナに感染、何故か回復したらしくアッと言う間に退院（というよりホワイトハウスという別の病院に転院？）。このAntiscience大統領も高価なモノクロナル抗体やらレムデシベルやらで治療を受けたようでステロイドも使ったことからかなり重体だったのではとも言われています。11月の選挙結果は世界的にも大きな影響があります。注視せざるを得ません。

今回の話題はやはりコロナです。前回第2波がもっと大きくなるか、変異によってもっと恐ろしい病気に変わる事はないのかという問題提起があり、活発な議論がありました。10/15時点でも東京は未だ一日200人を超す感染者が報告されています。日本では重症者は少なく死者も少ないのですが、アメリカは2ケタも多い感染者と死者、ヨーロッパもまた増えつつあるということです。治療のメドがかなりついた様ですが、相変わらず恐ろし

い病気です。Pandemic は収まっていません。来年の東京オリンピックはやるとのことですが、選手はともかく観客は日本人とアジア各国やオーストラリアなどコロナを抑え込んだ国々の人たちだけで開催ということになるかも。そんなわけで 10 月の定例会もコロナ特集とします。

今回の話題提供は 6 月に初めて出席して頂いたウイルス専門家石古博昭氏にお願いすることになりました。石古博士は大学院修了後当時ヤトロンに居られた荒尾さんのもとで研究開発に従事されその後三菱化学ビーシーエルでウイルス研究を中心に活躍され 2007 年にはヤトロンなど三菱系 3 社が統合し三菱メディエンスとなったとき執行役員にられました。定年後も臨床検査関係の仕事をされていて現在は(株)早川予防衛生研究所でお仕事をされて居られます。今回の話題は：

- ① ウイルスとは：細菌等との違い
- ② ウイルスの分類と種類
- ③ ヒトに感染する主なウイルス
- ④ 新型コロナウイルス ・ 新型コロナウイルスの起源
- ⑤ 世界伝搬
- ⑥ 診断と治療
- ⑦ ウィズコロナと新しい生活様式

こうした話題を中心のコロナに関する討論を行いたいと思っています。ご期待ください。

バイオテクノロジー標準化支援協会 (SABS) 第 104 回 定例会

日時：2020 年 10 月 24 日(土) 14 時 00 分 - 17 時 00 分

場所：八雲クラブ (東京都立大学同窓会)

(渋谷区宇田川町 12-3 ニュー渋谷コーポラス 10 階)

演者：(株)早川予防衛生研究所 石古博昭博士

話題：ウイルスのお話

八雲クラブではパソコンやプロジェクターが使えます。当分の間キッチンの使用禁止なので、各自ペットボトルなどの飲み物をご持参ください。また恒例ではこのあと近所の酒場で懇親会をやるのですが、未だ残念ながら無理なので今回も中止となりそうです。

ご注意： 定例会は、昨年まで 1 月-10 月まで第 4 金曜日に開催していたのを現在は第 4 土曜日に変更して開催しています。なお 11 月はお休みで 12 月は第 2 土曜日 (12/12) を既に予約してあります。

定例会会場八雲クラブへの道順：

渋谷駅ハチ公交差点から井の頭通りの坂道の右側を東急ハンズの看板目指して上ります。ハンズの手前で右の急坂を登って行き、坂の途中で左に曲がり新しい高層ビルを右にみながら坂道を登り直ぐ左側にある古いマンションがニュー渋谷コーポラスです。入口奥のエ

レベーターで 10 階に上ると直ぐ左隣の部屋が八雲クラブです。

当会ホームページ<<http://www.sabsnpo.org>>には本メールジャーナルのバックナンバーが収録してあります。また刊行雑誌のタグをクリックして頂くと「医学と生物学」をご覧になれます。またお知り合いの方でこのジャーナルを配信希望の方が居られましたらぜひ上記アドレス thiyama@athena.ocn.ne.jp にお知らせください。会員である必要はありませんのでよろしく

- ① 配信停止・中止希望は下記アドレスにメールにてその旨お知らせください。
- ② 配信先アドレス等の登録情報変更は メールにてその旨お知らせください。
- ③ バイオテクノロジー標準化支援協会に新規会員登録をご希望の方はメール下さい。
- ④ ウェブサイトに関するご意見もメールにて頂ければ幸いです。

特定非営利活動法人バイオテクノロジー標準化支援協会

NPO Supporting Association for Biotechnology Standardization (SABS)

〒173-0005 東京都板橋区仲宿 44-2

E-mail:sabs.elibraly.i@gmail.com

URL:<http://sabsnpo.org>.

理事：荒尾 進介、小林 英三郎、田坂 勝芳、松坂 菊生、小川哲朗、川崎博史、檜山 哲夫

監事：堀江 肇

ネット管理：川崎 博史、田中 雅樹